

2014年

4月号

ふれあいネットワーク



やめ社協だより

発行●社会福祉法人八女市社会福祉協議会(八女市社会福祉会館内) 〒834-0031 八女市本町599番地

地域介護予防講演会



地域介護予防講演会を開催

2月27日～3月6日

地域介護予防講演会を八女市内の6会場で開催しました。講師に健康運動指導士の山ノ内孝治氏をお招きし、「からだ・こころ・いのちの健康」をテーマに心と体を生き生きと」

山ノ内先生は、健康づくりは体だけではなく心も大切な要素で、脳の成長には運動と学習を同時に行うことが有効であると話されました。それは特別なことをするのではなく、普段の生活で行っている「歩く・噛む・呼吸すること」を意識して行うことで脳の新しい細胞が増え、また、いろいろなことに興味を持ち、豊かに受け入れる多様性を持つことが健康につながることを教えていただきました。

後半では
体全体の感
覚を研ぎ澄
まし、体の
働きに意識
を向けるた
めの体操を
実技を交え
て教えてい
ただきまし
た。



災害に強いまちづくり

「ひと」そして「地域」の力

災害ボランティア講座を開催しました

3月13日(木)八女市社会福祉会館にて、「平成25年度 災害ボランティア講座」を開催しました。『災害に強いまちづくり』「ひと」そして「地域」の力」をテーマに、「NPO法人がんばりよるよ星野村」代表の山口聖一氏と「NPO法人山村塾」事務局長の小森耕太氏をお招きし、八女市社会福祉協議会との三者で、それぞれの活動の事例発表とシンポジウム形式で、九州北部豪雨災害時の被災者への支援の取り組みと今後の活動について考えました。

八女市社会福祉協議会からは、災害発生から復旧期へ生活支援期へ復興期へ日常へ移りゆく状況によって様々な支援や活動の形があること、そして、体力や特技、技術・知識、時間など個人個人の特徴を活かしたボランティア活動や地域活動は誰にでもできること、思いを行動に移すまでの一歩の壁、その一歩踏み出す勇気が大切なこと、

など事例をもとにお話ししました。また『支援する』より『理解される』ことの方が難しいことを理解すること、様々なボランティア活動や地域活動するうえで必要なこともお話ししました。

「NPO法人がんばりよるよ星野村」代表の山口聖一氏からは、災害直後からのフェイสบックを活用した被害状況の周知やボランティア集めなどの活動から、八女市社協災害ボランティアセンター閉鎖後からの自主的なボランティアの受入れ、市と連携した星野村独自の災害ボランティアセンター活動についての報告がありました。観光や農業被害に対する支援も行われる中で「土砂や砂利を取り除くことが復旧ではない。どこまで以前の姿を取り戻すことができるかが重要」と住民の方に寄り添われながら行われてきた活動。現在は、NPO法人化され、災害復旧活動のほか、観光復興や都市部と

のネットワークづくりも視野に入れた地域づくり団体として、さらなる活躍が期待されています。

「NPO法人山村塾」事務局長の小森耕太氏からは、災害後に取り組まれた地域の復旧活動、そして地域の住民の方の生活支援にも着目された復興活動のほか、日頃からの山村塾の地域づくり活動の報告がありました。「高齢の被災者の中には、田畑が復旧したとしても、『いつまで農業ができるかわからない』と農業を諦められる方もいる」と暮らしの一部となっている「農業」を支援する「棚田サポーター」など、地域に密着されているその活動は興味深いものでした。「技術や知識はあるが、人手や時間が足りない山村地域」と「技

術や知識はないが、人手と時間はあるという方々」を結ぶ山村塾の活動。これからの山間地域の地域づくりの一つのモデルとして、山村塾の役割はさらに大きくなられることと思えます。



手話教室のご案内

手話教室実行委員会の主催により、手話の習得及び聴覚しょうがい者と交流を深めることなどを目的に下記のとおり開催されます。

○日時：平成26年5月7日～
平成26年12月3日(全30回)
(8月13日を除く毎週水曜日)
19:30～21:00

○会場：八女市社会福祉会館
(八女市本町599)

○対象：中学生以上

○定員：先着50名(定員になり次第、しめ切ります)

○参加料：無料

○申込み・問合せ：同会場
(TEL 23-0294)

基本方針

地域福祉を推進する団体として総力をあげて高齢者やしょうがい者、その家族等支援する人たちの状況把握等に努め地域福祉の推進に努めます。

また、住民参加と協働による福祉のまちづくりをすすめることを目標として掲げた「だれもが自分らしく生きるために ともに支えあい ところ豊かに 安心して暮らせる 福祉のまちづくりをすすめよう」の基本構想のスローガンのもと重点目標に沿って事業を実施しながら、事務事業の効率化や質の向上をめざします。

重点目標

- ① 広報紙やホームページ等による地域福祉活動の広報活動の強化
- ② 一人暮らし高齢者などの見守り、声かけ等を行う小規模ネットワーク活動やふれあいサロンの支援等、住民参加による小地域福祉活動の推進と活動の基盤づくり
- ③ 災害等の非常時に備えての災害救助ボランティア活動のネットワークづくり等ボランティアセンターの機能強化
- ④ 日常の金銭管理や福祉サービスの利用等を支援する日常生活自立支援事業等市民の権利を擁護する事業の展開
- ⑤ 介護保険法や障害者総合支援法、その他の事業等在宅福祉サービスの適正化と質の向上
- ⑥ 福祉のまちづくりを推進するための社協組織・体制の充実

実施計画

総務部門、地域福祉部門、在宅福祉事業部門のそれぞれが施設の管理も含めて互いに連携を図りながら、各事業を進めるよう努力します。社協が推進する地域福祉活動の主体と場を、住民と小地域に求め、住民の主體的な活動を支援し、日常生活圏における相談から支援まで一体的、統合的な活動の展開をめざします。また、本所・支所のそれぞれの地域特性を考慮し、円滑な事業展開に努めます。

① 法人運営事業部門

② 地域福祉活動推進部門(ふれあいのまちづくり事業)

- ① ふれあい福祉センター(暮らしの総合相談)事業の実施
- ② 地域生活自立支援事業
- ③ 住民参加による地域福祉事業
- ④ 福祉情報の提供
- ⑤ 教育福祉活動の推進
- ⑥ 関係機関(実務者等)との連携
- ⑦ 各福祉事業・当事者団体活動の推進
- ⑧ 日常生活支援事業の推進
- ⑨ 福祉資金貸付事業
- ⑩ 受託事業
- ⑪ 高齢者相談センター事業

③ ボランティアセンター活動推進事業

- ① 広報啓発活動の充実
- ② ボランティアコーディネート機能の強化
- ③ ボランティアの育成及び各種講座の企画実施
- ④ ボランティアセンターの運営強化
- ⑤ 災害ボランティアセンターの基盤整備
- ⑥ ボランティア登録の推進とボランティア保険の加入促進
- ⑦ ボランティア連絡会の組織化とつどいの開催
- ⑧ 外出支援ボランティア活動の実施
- ⑨ 住民参加型住宅福祉サービスに対する支援
- ⑩ 買物等生活課題の把握

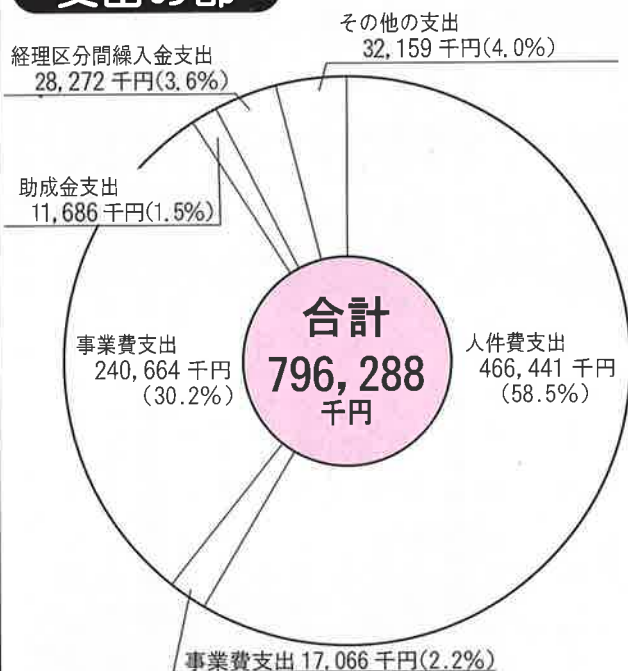
④ 在宅福祉サービス部門

- ① 在宅福祉サービス事業
- ② 葬祭事業

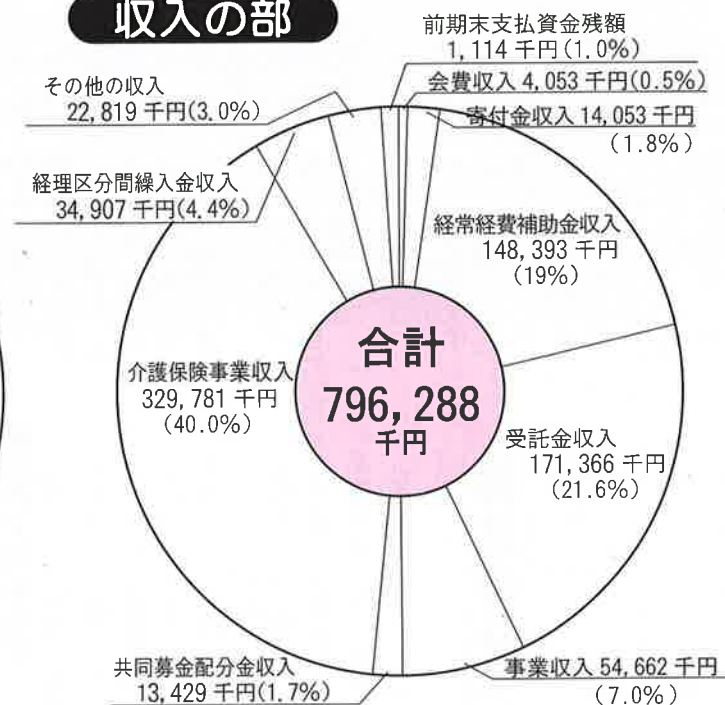
⑤ 施設管理運営部門

平成25年度の社協一般会計予算 総額 796,288千円

支出の部



収入の部



リサイクル適性 環境に配慮した植物性大豆インキを使用しています。

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

